様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０１２４

研究課題名（和文）「静物」に関する脱領域的研究―ネーデルラント美術を中心に

研究課題名（英文）Interdisciplinary research for still-life in the Netherlandisch art

研究代表者
尾崎　彰宏（Ozaki, Akihiro）

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：８０１６０８４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　古典主義の美術理論では最下位に置かれた静物画が、ネーデルラントでは枢要な役割をもった。それに大きな役割を果たしたのが、地理上の発見だ。多種多様なモノがヨーロッパに流入してきたことによってアイデンティティが揺らぎ、その確立のために、古代の「静物」観の再評価が起こった。16 世紀後半、ネーデルラントを席巻したイコノクラスム（偶像破壊運動）によって、宗教画像の禁止が「静物」を深化させ、フェティシズムへと向かう心性が醸成された。特にオランダにおいては「静物」が東洋交易との隆盛により促進され、それは「オランダ」の表象として際立ち、スペインなどの旧世界を駆逐する政治的機能を果たすことがあきらかになった。

研究成果の概要（英文）：A still-life picture put in the last place in a classical art theory had an important role in Netherlands. It is discovery in the geography that began in Europe at the end of 15th century to have played a big role for the reevaluation. Identity crisis in Europa caused to happen by a great variety of things having flowed into Europe from New World. The reevaluation for the viewpoint of the ancient still-life happened to establish new identity. A religion images were prohibited by iconoclasm that swept over Netherlands in the late 16th century. The prohibition of the religious images did not let pictures decline and will multiply secular images. As a result, "still life" was produced a lot, and the fetishism was brought about. The "still life" in the Netherlands was promoted in particular by the prosperity with the Orient trade, and it was outstanding as representation of "the Netherlands", and expel the Old World such as Spain; it was revealed that performed a political function.

研究分野：Art History

キーワード：静物　ネーデルラント　偶像破壊運動　イコノクラスム　オランダ　地理上の発見　東洋交易　スペイン

１．研究開始当初の背景

「静物」は事物の単なる描写といった些末なものではなく、脱領域的な様々な観念形態が内包された主要なる芸術表現である。そのため「静物」は、「聖と俗」をあわせもっている複合体であると同時に、それが属する分野は、領域横断的であり、周縁的なものではなく、中心的なものである。それは、静物画とか肖像画とかいう特定のジャンルに限定できない側面をもっている。つまり、「静物」がジャンルの「あいだ」に立ちあらわれるのである。こうした「静物」の特徴を検証することは、たんに静物画というジャンルの特性にとどまらず、ネーデルラント美術の特性を解明する上でもきわめて有効なアプローチであるに違いない。加えて「静物」の脱領域に関する枢要な論点は「聖・俗」にかかわるだけではなく、「静物」が科学やコレクションと深く関係を持ちながら脱領域化していったことである。そうした点を解明しようとするのが、研究に至った経緯である。

２．研究の目的

本研究の最大の目的は、「静物」表現に焦点を絞って、**観念からモノ**へという転回を示したネーデルラント美術の特質を剔抉することである。従来「静物」といえば、絵画ジャンルの一つである「静物画」のことを指していた。しかし、ジャンルの一分野として確立するのは18世紀のことであり、その場合、静物画は、歴史画を頂点とする最下位に位置づけられた。こうした視点から静物画を見ることは、その重要性を根本的に見誤ることになる。本研究では、静物画という特定ジャンルからではなく「静物」という形で見ることで、初期ネーデルラント美術から 17 世紀オランダ美術に至るなかで、「静物」が「聖と俗」「芸術と科学」「異国の表象」として**脱領域的**なところ、べつのいいかたをすれば**「あいだ」**にあらわれ、それが実はネーデルラント美術の中核をなしていることを明らかにする試みである。以上のような研究により、従来のネーデルラント美術研究における静物画研究では十分解明が進んでいなかった諸問題に新たな地平を提起できるはずだ。

３．研究の方法

ネーデルラント美術の特質を「静物」を通して解明しようとするにあって、個別の画家の比較、異文化間の比較検討、それに美学・芸術学的な観点を取り入れることで、「静物」の機能が宗教から感性的なものへの転回に果たした役割を海外調査、文献資料の検討などの作業を通して以下のように解明する。①「静物」においても規範となっているファン・エイクをはじめとする初期ネーデルラント美術おける「静物」の特性。これと並行しておこった本草学・解剖学などの領域での「静物」との関連性を検討する。②宗教から美的なものへの転換に大きく作用した 16 世紀後半のイコノクラスム（偶像破壊）の美学・芸術学的見地からの解明。③「静物」の美的機能は、感性的なものを通して顕在化する「ユートピア」や「政治性」の表象の解明。本研究は、ネーデルラント美術にあらわれた「静物」について、「静物画」という形で油彩画など狭義の芸術作品に限定するのではなく、本草学の挿図や解剖学の挿図なども含めている。したがって脱領域というのは、たんにジャンル横断であるという意味だけでなく、ハイ・アートと挿図という実用的な目的に供されるものにももうけないことも意味している。さらに、独立した静物画のみを対象にするのではなく、宗教画などモチーフや、あるいは絵の「埋め草」的な役割として描きこまれたモノの描写をも「静物」という範囲に含め、研究対象とする。そうすることで、ネーデルラント美術おいては、背景をなす「風景」とならんで「静物」が極めて重要な機能を果たしていることが見えてくる。主題からすると些末で周縁的でしかない「静物」が、形象という観点から見ると逆に中心

的な位置づけを与えられることになる。このパラドクスを解明し、それがネーデルラント美術の重要な特性であることを明らかにするために研究計画・方法は以下のように進めたい。

① ネーデルラント美術にあらわれた「静物」に関する個別研究
② ネーデルラント美術と異文化間にあらわれた「静物」に関する比較研究
③ ネーデルラント美術にあらわれた「静物」が成立する心性の転回と美的機能

４．研究成果

宗教的な主題が衰退するに伴い、それと反比例する形で独立したというような静物画観は一面的な真実を表しているだけである。宗教性が美的感性を、逆に、描かれた「静物」がその発展を増幅する働きをもっていた。それは、歴史画を頂点とする古典主義的な絵画のヒエラルキーの適応範囲がきわめて限定的であったことを明らかにするものとなった。それにかわって、古典主義の美術理論では最下位に置かれた静物画こそが、ネーデルラントでは脱領域的に枢要な役割をはたしていた。そうした歴史的展開に与って力のあったのが一つには、地理上の発見である。それよって多種多様なモノがヨーロッパに流入してきた。それが原因で大きく揺さぶられたアイデンティティの確立のために、みずからのアイデンティティを探求する熾烈なまでの要求が起こった。そうした潮流から古代の「静物」観を再評価する動きが生まれた。16 世紀後半、ネーデルラントを席巻したイコノクラスム（偶像破壊運動）により、主教画像の禁止が「静物」を美的だと感じさせる感性をより深化させ、フェティシズムへと向かう心性が醸成された。特にオランダにおいては「静物」が東洋交易との隆盛により促進され、それは「オランダ」の表象として際立ち、スペインなどの旧世界を駆逐する政治的機能を果たすことになった。その成果を次の４点にまとめることができる。

（１） 教訓や寓意を効果的に伝達するために、「静物」は、鑑賞者の目を悦ばせる絵画ジャンルとして独立した。
（２） 「静物」は、脱宗教といった方向とは逆に、宗教性を喚起する仕掛けとして用いられた。
（３） 「静物」は一時代の知の集積であり、近代初期の科学革命とも連動している。
（４） 「静物」が東洋表象のような異文化を体現することで、オランダはそうした文化を包摂していることで、世界をリードするという先進的なイメージを創りだしている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　６　件）

① 尾崎彰宏、「稀代の「プロテウス」にして感性画家アルチンボルド――《ウェルトゥムヌス》再考」上村清雄責任編集『視覚のラビュリントスⅣ　視覚のイコノグラフィア』ありな書房、2015 年 7 月、pp. 221-262, 290-294.（査読無）
② Akihiro Ozaki, The Internal Body Revealed: Rembrandt"Who was a Godless Painter", *Art History* , 36 (2015), Dep. of Art History, Tohoku Univ., pp. 1-7.（査読無）
③ 尾崎彰宏、「レンブラントのスペクタクル――「受難」連作に「情念」の絵画化の射程」『西洋美術研究』19 号（2014）pp. 137-151.（査読有）
④ Akihiro Ozaki, L'impatto dell'Oriente: L'enigma della sfida di Van Gogh a Rembrandt, *Art History* , 34 (2013), Dep. of Art History, Tohoku Univ.,pp. 1-19.(査読無)
⑤ Akihiro Ozaki, Painted Images of Chinese Porcelain -Symbols of Holland as Seen in Still-Life

Paintings, *Art History*, 34 (2013), Dep. of Art History, Tohoku Univ., pp.1-12.（査読無）

⑥ 尾崎彰宏「ヘンドリック・ホルツィウス《ダナエ》――ホッサールトの「視覚」からホルツィウスの「感性」へ」、尾崎彰宏監修解説『ネーデルラント美術の魅力　ヤン・ファン・エイクからフェルメールへ』ありな書房、2016 年 12 月、pp. 157-200, 298-302.（査読無）

〔学会発表〕（計　5　件）

① Akihiro Ozaki, Rembrandt and Islam:：Sympathies and Transformations, The 4th German-Japanese University Presidents' Conference: Workshop GroupⅢ: Social Sciences and Cultural Translation. The Transformation and Creation for cultural values and social frameworks, 東北大学、2015年4月15日（招待講演）

② Akihiro Ozaki, A New View of Rembrandt's Etching The Shell(B 159): Sharing Dreams of Asia as a "Community of the Imagination", 東北大学、2015年6月27日（第３回東北大学・ローマ大学・ライデン大学人文学学術交流シンポジウム）

③ Akihiro Ozaki, Vermeer's Love Letter and the East, Palazzo Marucelli-Fenzi, Florence, 2015 年10月29日（日欧学術ネットワーク：支倉リーグ第１回シンポジウム）

④ 尾崎彰宏「ベラスケスとレンブラント――粗描きの『絵画論』」早稲田大学、2016 年 3 月 4 日（招待講演）、公開国際シンポジウム「ベラスケスとバロック絵画：影響と同時代性、受容と遺産」

⑤ Akihiro Ozaki, The Internal Body Revealed: Rembrandt "Who was a Godless Painter"（第 2 回東北大学・ローマ大学・レイデン大学学術シンポジウム）、レイデン大学（オランダ）、2014 年 3 月 24 日

〔図書〕（計　2　件）

① 尾崎彰宏・幸福輝・廣川暁生・深谷訓子、『カーレル・ファン・マンデル「北方絵画列伝注解」』中央公論美術出版 2014 年、794pp.

② 尾崎彰宏、『ゴッホが挑んだ「魂の描き方」――レンブラントを超えて』小学館、2013 年、190pp.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

尾崎　彰宏（OZAKI AKIHIRO）
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80160844

(2)研究分担者

（　0　）
研究者番号：

(3)連携研究者

（　0　）
研究者番号：